



農学部嵐丘庭のサクラ（紙谷智彦氏（昭50林）撮影）
“嵐丘庭は同窓会60周年記念事業（平成25年）の一環として改修され農学部に贈呈”

松涛

№.34

2017. 3. 10

主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	2
今年度の活動計画	4
同窓会会計報告	5
農学部を去るにあたって	6
支部だより	8
職場紹介 日本製粉株式会社	11
ペンリレー 同窓生からのたより	12
国際交流	15
学部だより	16
特集 農学部が変わります	19

同窓会長挨拶

同窓会長

渡 辺 仁



昨年7月、
進藤隆前会長
の後任として
農学部同窓会
長を引き継ぐ
ことになりました
した渡辺仁

(昭和52年3月農業工学科卒業)でございます。若輩の私が、約8,400人を超える同窓会の会長を拝命するのは些か荷が重く、力不足ではございますが、会員皆様のご指導・ご協力を頂きながら、母校や諸先輩へのご恩返しや後輩たちの活躍に少しでもお手伝いが出来ればとお受けした次第です。何卒宜しくお願い申し上げます。

新潟大学も、平成16年の国立大学法人化に伴い、「地域活性化の中核」グループに位置づけられ、日本海側の大規模総合大学としての役割を担うことになるとともに、「学問を通して人を育てる組織」への転換が求められ、人材育成に主眼を置くことになるそうです。

その結果、農学部もH29年度には1学科体制に移行すると伺いました。私共が学んだ新潟大学農学部が、地域に根ざした大学としてしっかりと役割を果たし、広く世界で活躍で

き社会が求める人材を輩出することに期待したいと思っています。

しかし、大学に対する運営交付金は年々減額されていることから、大学運営は大変厳しいものとなっており、地域貢献や課外活動、受験生確保、就職活動支援などに十分な予算配分ができないとのことでした。

こうした状況にあつて、同窓会として何かお手伝いできないものかと考えているところですが、昨年7月2日に開催された第6回同窓会総会の出席者数は約90名と、会員総数からすると少し寂しさを感じる状況です。

同窓会活動も存在感が薄れてきているのではないかと危惧しており、会員の高齢化、帰属意識の低下など、社会の変化や時代の要請に応える努力も必要ではないかと考えております。

これまでの同窓会活動を、しっかりと継続していくことはもとより、少しずつ新しい風も送り込みたいとも思っています。「懐かしさ」、「同窓の絆」を大切にするとともに、「新しい出会い」、「学生との交流」など、様々な工夫の余地も残っていると思いますし、各地での支部活動の活発化にも期待するところです。

会員皆様方からの同窓会活動へのご理解と積極的な参加により、同窓会を盛り上げて頂きたいお願い申し上げます。

最後に、平成20年から2期8年間、同窓会の新潟県支部立ち上げや創立

学 部 長 挨 拶

農学部長



農学部同窓会会員の皆様には、いつも農学部のために多大なご支援を賜りまして誠にありが

とうございます。農学部を代表して、厚くお礼を申し上げます。この度、農学部同窓会の会長が進藤隆前会長から、渡辺仁新会長に交代されました。進藤前会長には、絶えず農学部に対する暖かい励ましと、時には叱咤激励をいただきました。学生たちへの大変暖かく感動的な励ましの言葉、私たち教員に対する思いがけない気配りやご配慮に、進藤前会長の農学部への深い愛情を私はずっと感じておりました。言葉では言い尽くせませんが、これまでの農学部への多大なご支援とご貢献に対し、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。また、渡辺仁新会長様には、

60周年記念事業の企画等に多大なご尽力を賜った進藤前会長に紙面をお借りして改めて感謝を申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げ、就任ご挨拶とさせていただきます。

渡 邊 剛 志

これから説明させていただきます農学改組を経て、国立大学が直面している様々な試練に負けずに発展しようとしている新生農学部への、一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて昨年度の松涛の紙面では、平成27年度に農学部が中心となつて開催いたしました国際シンポジウムなどの活発な国際交流活動や、農学部フォーラムや夢農業シンポジウムなどの農学部の活発なアクティビティをご紹介させていただきました。またその一方で、運営交付金の減少で多くの国立大学が厳しい試練にさらされている状況や、国立大学の改革が強く求められる中で、新潟大学農学部においても学部改組に向けた議論を加速させていることにも触れさせていただきました。

そのような改組の議論を経て、いよいよ平成29年度、農学部は新しい体制へと生まれ変わります。農学部

の大幅な改組は、平成3年以来、実に25年ぶりとなります。また、来年度の改組は農学部だけでなく、理工農の理系（自然科学系）3学部の同時改組となり、3学部が足並みをそろえて「1学科複数主専攻プログラム制」に移行することになります。

そればかりでなく、この3学部同時改組と時を同じくして、新潟大学にとって37年ぶりの新学部となる「創生学部」が新設されます。したがって来年度は、新潟大学にとって大きな変革の時、あるいは今後の大学院改組や文系学部改組が想定されている中で、大きな変革の始まりの時と言っても良いかもしれません。理系3学部が足並みをそろえての同時改組には、農学部の決断が非常に大きな役割を果たしました。

実を申しますと、当初の予定では農学部の改組はもつと時間的余裕を持って、2〜3年後を目標して行われる予定でした。しかし、国立大学全体が置かれている状況、他の国立大学農学部の動向、そしてその中で新潟大学の状況から、前倒しでの改組を決断することになりました。そのため、平成27年度の後半から平成28年度前半にかけての改組に向けての学部の意思統一と改組計画の策定は、困難と混乱を極めました。そして平成27年年末から28年3月までの文部科学省との折衝、平成28年度半ばにかけての新しい農学部と新しい入試制度を短期間で周知するため

の広報活動に、貴重な時間を割いて、皆さんの教員に本当に献身的なご協力をいただきました。時には理学部と工学部と分担し、時には農学部独自で、農学部の改組WGの教員や入試実施委員会委員を中心に、皆さんの教員が県内外の高校に説明に出かけました。実はそのための経費を同窓会からご支援いただいたております。予算削減のなかでのこのご支援は本当に貴重でありまして、農学部教員一同心から感謝している次第です。そして、この原稿を書いている今もなお、新体制で新入生を受け入れるための体制作りに、学務委員会や教育検討委員会、広報委員会を中心に必死で取組んでいるところで

す。農学部同窓会の皆様にも是非ご理解いただきたくため、少し長くなりますが、改組の目的や内容にポイントを絞って今回の農学部改組についてご紹介したいと思えます。今回の改組では、(1)社会的要請の高い食品分野の教育研究と人材育成を強化し、さらに、農学分野の教育研究の柱である「生命」、「食料」、「環境」の教育研究をより効率的に推進できる体制を整えること。(2)社会の要請、時代の変化に柔軟に対応できる教育研究システムを構築し、学科の壁に阻まれることなく幅広い知識を獲得する学修を可能にし、グローバル展開を担いうる農学系人材を育成すること、などを基本的な理念・目的としています。

改組の具体的な枠組みですが、ま

ず現在の農学部3学科（農業生産科学科、応用生物化学科、生産環境科学科）の体制を、農学部農学科1学科5主専攻プログラムに改組します。これに伴い入学定員を20名増員し、農学部の入学定員は現在の155名から175名になります。1学科制にすることによって、学科の壁に阻まれることなく、教育プログラムを継続的に改善することや、幅広い分野の学修がより容易になり、分野や進路の選択がより柔軟にできるようになります。また時代や社会の要請にも、より柔軟に対応することができます。

次に5つの主専攻プログラムについてですが、まず新潟県の代表的産業であり、社会的要請の強い、食品分野に関する教育研究に特化した「食品科学プログラム」を独立して設置します。そして、農学分野の教育研究の柱である、生命・食料・環境に明確に対応した「応用生命科学プログラム」・「生物資源科学プログラム」・「流域環境学プログラム」を設けます。また、フィールド科学分野の教育研究に特化した農学部と理学部の「学部横断型プログラム」・「フィールド科学人材育成プログラム」を設置します。これは、これまでになかった、2つの学部が対等の立場で協力して教育プログラムを運営する、全く新しい学部間教育の試みです。

また新しい農学部の教育課程の特色としては、(1)1学科制による、学

科の壁に制限されない柔軟な教育システムにより、社会の要請、時代の変化に柔軟に対応できる教育体制を構築する、(2)農学に関する幅広い基礎知識を学ぶ農学部共通基礎科目の充実、主専攻プログラム選択後も横断的に学べる科目の充実、専門基礎科目・専門科目・豊富な実験実習による専門教育の体系化、などにより幅広い知識と技術を備えた農学系人材を養成する、(3)英語で開講する科目、英語によるプレゼンテーションスキル科目、海外語学研修などの導入、世界展開力強化事業や多くの国際交流協定校を学部教育のグローバル化に活用により、グローバル教育を充実する、などが挙げられます。以上のような改組により、農学部は、国立大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、地域や世界に貢献できる優れた農学系人材の育成を通じて、農業や食品産業をはじめとする農学系産業の振興、グローバル化、地域創生・地域の活性化などに、これまで以上に貢献していこうと決意しております。同窓生の皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

改組のご紹介が長くなつてしまいました。改組以外の農学部の活動についても少し触れておきたいと思えます。平成28年9月16日には、農学部は五泉市と連携協力協定を締結しました。昭和24年に新制国立大学として新潟大学が創立されると同時に、旧村松町にあった新潟県立農

2016年度活動計画

幹事長 箕 口 秀 夫

在学生に対し、引き続き「嵐丘庭」

を活用した交流事業をとおし同窓会活動の活性化に努めていきます。また、農学部学生のための学ぶ環境の充実を支援し、新入生の保護者から同窓会活動の理解を得るようにしていきます。

2016年度は、主として以下の活動に取り組みます。

1、「松濤」34号の発刊

より充実した内容を企画して読まれる会誌を目指します。

2、支部活動の支援

各支部の活動をより一層支援します。例えば、支部主催の研修会への講師派遣等に対応します。

3、「嵐丘庭」の維持・管理、有効活用

「嵐丘庭」を活用した交流事業等を通して、同窓会活動の活性化に努めていきます。

4、学術・文化活動への支援

農学部や各学科が行う学術・文化活動を支援します。

5、受験者増加への取組みに対する支援

受験者確保のための「高等学校での説明会」及び「高等学校での出前講義」に行くための旅費の支援を行います。

6、農学部在学生のための農学部図書室の充実支援

新入生の保護者から同窓会活動を理解してもらうための具体的な支援を行います。

7、農学部学生の就業力育成に係る支援

農学部学生の就業力育成にあたり、卒業生による指導、助言のための講演、研修会などの支援を行います。

8、学内諸行事への支援

「卒業祝賀会」を支援します。また、退職者に記念品の贈呈を行います。

9、全学同窓会への協力

運営委員会への参加、カード入会事業の協力、大学との懇談会や全学交流会への参加、機関誌「雪華」の発送など他学部同窓会と足並みを揃えた協力を行います。

林専門学校を母体として新潟大学農学部は誕生いたしました。したがって、五泉市・旧村松町は新潟大学農学部のルーツと言って良い地域です。旧村松町の農学部跡地は、農学部の付属農場（村松ステーション）となり、農学部の教育研究の実践の場としてなくてはならない重要な役割を果たして来しました。今回の連携協定締結は、この村松ステーションが核となるものですが、連携協定締結をきっかけにして、農学のより幅広い分野における連携協力に発展させていきたいと考えております。

また、いまや農学部の大きな特徴となっている活発な国際交流では、新潟大学農学部を中心としたトルコの大学との連携事業である、大学の世界展開力強化事業「経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成」によって、8月にアンカラ大学、エーゲ大学、トルコ中東工科大学から計15名の短期派遣の留学生を迎えました。また、2月にはチェンマイ大学で、タイ、トルコ、日本の学生が交流するプログラムが実施される予定です。

そして、昨年度から始まったロシア連邦を対象とした国費外国人留学生の優先配置プログラム「ロシア連邦極東地域における高度農業人材育成プログラム」により、平成28年10月に新たに5名のロシア人留学生を、農学分野で博士後期課程に受け入れました。昨年の3名と合わせて、

ロシアからの留学生は8名になりました。日本とロシアとの関係は、今後一層重要性を増してくるものと考えられますが、新潟をロシアとの交流の拠点とする上で、農学部のロシアとの交流が大きな役割を果たしていくものと期待しております。

また11月には、「農と食のスペシャリスト養成プログラム」の国際インターンシップで、農学系の博士前期課程の学生10名がベトナムを訪れました。今回の派遣先を中心となるのはハノイ工科大学ですが、ハノイ農業大学も訪問先となっています。

ちようどこの国際インターンシップを終えて少し経った頃の、12月15日にハノイ工科大学と新潟大学は、農学部を責任部局として大学間交流協定を締結いたしました。

以上のように、平成29年度の新生農学部の新体制に向けての大車輪の作業の中で、今年度も農学部は様々な事業を展開いたしました。農学部ホームページに、改組の情報や、農学部の様々な活動の関連情報が掲載されていますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

末筆ではございますが、同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、新生農学部へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



2015年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告（平成27年5月1日～平成28年4月30日）

1. 収入の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	4,200,000	4,200,000	0	
前年度繰越	681,296	681,296	0	
利子・雑収入	444	471	27	利息 471
合 計	4,881,740	4,881,767	27	

2. 支出の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	550,000	482,984	▲ 67,016	全学同窓会10周年参加補助、消耗品、通信費、謝金、支部総会出席費用等
2. 会議費	460,000	424,567	▲ 35,433	常任幹事会支部役員出席旅費及び会場使用料等
3. 名簿情報維持管理費	60,000	54,000	▲ 6,000	名簿データメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,000	0	
5. 退職者記念品費	60,000	54,864	▲ 5,136	退職者（教員4名）
6. 嵐丘庭維持費	100,000	70,340	▲ 29,660	中庭下刈り1回（シルバー人材）
7. 「松涛」発行費	1,300,000	1,243,517	▲ 56,483	「松涛33号」「しおり」印刷、郵送等
8. 慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	弔電、生花等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	8支部（6支部35,000円、新潟県・首都圏支部各70,000円）
10. 学文活動助成費	250,000	174,387	▲ 75,613	新大G.P（農学部主催）、農学部フォーラム、国際シンポ 支援 等
11. 全学同窓会負担金費	376,000	375,008	▲ 992	
12. ホームページ費	50,000	6,000	▲ 44,000	松涛33号、記事等掲載
13. 志願者確保対策助成費（出前講義旅費助成費）	270,000	182,284	▲ 87,716	教員による高校訪問、出前授業、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	100,000	0	学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	0	▲ 50,000	農学部学生の就業力育成のため、農学部卒業生による指導、助言 旅費等
16. 予備費	155,740	0	▲ 155,740	
合 計	4,881,740	4,217,951	▲ 663,789	

3. 差引残高（A－B）663,816円 次年度への繰越金

2016年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算（平成28年5月1日～平成29年4月30日）

1. 収入の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
基本収入からの繰入	4,300,000	4,200,000	100,000	
前年度繰越	663,816	681,296	▲ 17,480	
利子・雑収入	471	471	0	
合 計	4,964,287	4,881,767	82,520	

2. 支出の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
1. 事務局費	600,000	482,984	117,016	全学同窓会交流会出席補助・役員会・通信・電話料・各支部への出張旅費・謝金等
2. 会議費	460,000	424,567	35,433	常任幹事会旅費等
3. 名簿情報維持管理費	60,000	54,000	6,000	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,000	0	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	60,000	54,864	5,136	退職者4名
6. 嵐丘庭維持費	100,000	70,340	29,660	
7. 「松涛」発行費	1,300,000	1,243,517	56,483	「松涛」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	支部活動助成（6支部 @35,000 首都圏、新潟県 @70,000）
10. 学文活動助成費	250,000	174,387	75,613	3大学合同研修会、F.Cシンポ、新大G.P、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	376,000	375,008	992	分担金
12. ホームページ費	50,000	6,000	44,000	H.Pメンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費（出前講義旅費助成費）	270,000	182,284	87,716	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	100,000	0	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	0	50,000	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16. 予備費	188,287	0	188,287	
合 計	4,964,287	4,217,951	746,336	

2015年度新潟大学農学部同窓会 基金会計報告（平成27年5月1日～平成28年4月30日）

1. 収入の部 (円)

科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	24,738,002	25,060,210	322,208
基金収入（入金金）	4,482,300	4,871,560	389,260
利子	30,038	30,230	192
60周年募金	9,870	0	▲ 9,870
合 計	29,260,210	29,962,000	701,790

2. 支出の部 (円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	4,200,000	
総会開催案内送付等	240,096	基金口座（第四銀行）より
合 計	4,440,096	

※平成28年度も総会開催関係費用は基金口座（第四銀行）より支出

3. 次年度への繰越金 (円)

科 目	金 額
収入合計	29,962,000
支出合計	4,440,096
繰 越 金	25,521,904



農学部を去るにあたって

35年間 ありがとう(づ)ございました

大山 卓爾

(応用生物化学科)



馬場先生、五十嵐先生にお声をかけて頂き新潟大学農学部に助手として赴任したのは35年前の昭和57年4月

でした。赴任直後の6月に長女が生まれ、その時分析化学実験を教えた学生たちから羊のぬいぐるみの誕生プレゼントを頂きました。また、赴任当初小金町の宿舍に入居し、東京育ちの家内には2歳の息子と生まれたばかりの娘をかかえ苦労を掛けました。その年の暮れに農学部校舎から見える合同宿舍2号棟が完成し、運良く入居することができました。宿舍には同じ年頃の子供達が大量いて、家内も友達ができ息子と娘をのびのびと育てることができました。その宿舍も老朽化で4年後に取り壊されることになり、時の流れを感じます。その頃は私も若く忘年会などで研究室の学生さんを宿舍に招き子供と遊んでもらったりもしました。当時学生だった皆さんは今でも年賀状をくれたり時折訪ねてくれま

す。また、どういいうわけか研究室の学生同士の結婚が相次ぎ、おそらく十組以上になると思います。仲間も何組かさせて頂きました。

研究は、農学部の先生方、大学院生、卒論生のご協力により楽しく進めることができました。赴任当初は、馬場先生、五十嵐先生のチューリップの研究に参加させていただき、冬期間萌芽前にチューリップ根に蓄積する窒素の主成分がグルタミンであることを確かめることができました。ダイズの研究では、硝酸による根粒の生長や窒素固定活性の阻害機構等の基礎研究を行うとともに、農学部の先生方、新潟県、ロシア沿海地方農業アカデミーなどの共同研究でダイズにおける緩効性窒素肥料の深層施肥の研究を約30年にわたり継続し、現在、普及しつつあります。研究の成果は、ひとえに研究室の大学院生、卒論生が一生懸命に努力してくれた賜物です。研究室で学んだ卒業生や院修了生が社会に巣立って様々な分野で活躍しているのを見聞します。

退職までの十数年は、農学部長、自然科学研究科長、自然科学系長、日本土壌肥科学会長などの重責を担い、学生の教育や研究が十分にできなかったことが残念です。農学部長時代には農学部同窓会から校舎の改修工事に合わせて嵐丘庭の整備にお

力添え頂きありがとうございました。小さく弱々しかった木々も徐々に逞しく育っておりです。農学部、農学部同窓会のますますのご発展を祈念しております。

農学部の23年を 振り返って

門脇 基二

(応用生物化学科)



私は平成5年7月16日に新潟大学に赴任致しましたので、23年間お世話になりました。早いものです。当時米国から直接赴任したため、正直のところ、雑草に覆われた真夏の五十嵐キャンパスにはがっかりしたことを覚えています。その後、キャンパスは見違えるほどきれいになり、ゆつたりとした建物の配置と緑豊かな風情はとても気に入っています。農学部の建物もきれいになりましたね。誇らしいキャンパスです。

私は米国で当時の世界のリーダーであったグレン・モルティモア先生の指導を受け、オートファジーの研究を携えて赴任しました。当時は誰もオートファジーという言葉を知らず、一抹の淋しさの半面、のんびりと仕事ができるしました。帰国後は、当時岡崎の基礎生物学研究所の大隅良典先生と、この誰もやらない分野を

楽しく議論していただいたものです。今年になって、大隅先生のノーベル賞で一気に世界が変わった感があります。私自身は農学部らしく、あくまでも栄養によるオートファジーの調節にこだわってやって参りました。

50歳頃になり、もうひとつ是非新潟らしい研究をと一念発起して、米の機能性研究、特にタンパク質の研究を始めることにしました。以来、こちらも誰もやらないテーマだったため苦労も沢山ありましたが、気持ち的には楽しくやることができました。幸いにも、脂質代謝改善作用を始めとして、糖尿病性腎症緩和作用、骨代謝改善作用、消化管免疫改善作用などいくつもの新規の健康機能性を見つけることができました。全国の研究者との共同研究により、新しい流れを作り出すことができたかと思えます。また、この時期に、農水省からおいでいただいた大坪研一先生に沢山の指導をいただき、新潟大学の米研究が組織化でき、広がりのある、実りあるものにできたことを感謝しております。

また、平成15年からは鈴木敦士先生を先頭にコア・ステーション地域連携フードサイエンスセンターを組織し、他学部の先生方とともに新潟地域の食産業発展のための産学連携体制がはじまり、学内でもユニークな活動で認知されるようになりました。また、そこから派生して平成26年からは新潟発の日本災害食学会が立ち上がり、社会的な影響を与え始めていることは、本当に関係者の皆様のお力のおかげと感謝しております。

す。

後半は、学系の仕事も多くさせていただきましたが、特に最後の3年間は社会連携担当副学長として大学全体からの視点を学び、多数の教職員、また外部の産業界、自治体等の方々とも広く交流する機会をいただきました。改革は道半ばではありましたが、少しでも大学の財政改善に貢献し、名実共に地域のシンボルとしての新潟大学となるよう、非力ながら努力したつもりです。

過ぎてみると、あつという間の23年間で、本当に好きなことをやらせていただきました。多くの先生方にご指導いただき、またご協力をいただきました。ありがとうございました。新潟地域は今後ますます農学分野、環境分野、食品分野の発展と貢献が期待されています。この辺で若い皆様にたいまつを渡して、農学部の方々の輝かしい発展を続けていきたいと思います。期待する次第です。

ありがとう

ございました

新村 末雄

(農業生産科学科)



新潟大学農学部には、農学研究科畜産学専攻の修士課程の学生として2年間、研究生として5年間、教員

として30年と半年の期間お世話にな

りました。このような長期間にわたって新潟大学農学部で勉学と教育活動をできましたのも、偏に同僚である先生方、事務職員と技術職員の皆様方の御陰と感謝申し上げます。そして、私と一緒に研究活動に励み、多くの思い出を作ってくれた多数の学部および大学院の学生諸氏に、何よりも感謝申し上げます。卒業生および修了生の多くとは今でも連絡を取り合っており、そのような良き学生の指導に長年携われたことは、教員冥利に尽きることであり、感謝しております。

平成29年度から、農学部は1学科という新たな組織体制で教育、管理、運営を行っていく訳ですが、教職員、特に教員が改組して新組織になることを理解し、学部全体が一つにまとまり、すばらしい学部になって上げていただきたいと思います。ありがとうございます。

最後になりますが、嵐丘庭の樹木の成長、ならびに農学部同窓会の益々のご発展と同窓会員の皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。私の退職のご挨拶とさせていただきます。



農学部33年間で

振りかえって

渡邊 剛志

(応用生物化学科)



私は昭和62年3月に新潟大学自然科学研究科の助手として新潟大学に赴任しましたので、新潟大学で29年間

教員生活を送ったことになりました。

出身学部も新潟大学農学部です。で、学生の期間を合わせると、新潟の地で、新潟大学で過ごしたのはなんと33年間です。入学は農学部が五十嵐キャンパスに移転した直後(昭和49年)で、学部1年生から真新しい農学部棟で勉強することができました。おそらく最初の学生だったと思います。また、教員として赴任したのは自然科学研究科の初めての専任助手の一人としてでした。生命システム科学専攻の他の2人の専任助手と計3人で、自然科学研究科管理棟の5階で仕事を開始しました。ということ、学生としても教員としても、新潟大学の生活は真新しい建物での幸運なスタートでした。

そのようにしてスタートした新潟大学での日々を振り返ると、研究も管理運営も社会貢献も皆、中途半端であつたことを反省せざるをえません。とくに最後の2年間は、農学部長として、農学部改組、大幅予算削

減、人事凍結、コンプライアンス問題、その他農学部の様々な課題や問題への対応に忙殺され続ける日々でした。貴重な最後の2年間に研究からほとんど隔絶して過ごした点は残念でしたが、比較的規模の小さな農学部であっても、学部を動かすために必要なことがこれほど多く、また次から次へ息つく間もなくいろいろな問題に直面することを覚悟し、経験をした期間でもあります。

このように中途半端な教員生活でしたが、少なくとも55歳くらいまでは、それなりに研究に時間を費やすことができたように思います。必ずしも一般受けする研究内容ではありませんが、「結晶性構造多糖(キチン)の酵素分解メカニズムの解明、細菌のキチン分解利用機構の解明とその応用、キチン分解の生物学・生態学的重要性の理解」という自分なりの究極的な課題に、多くの優れた研究者の協力を得ながら独自の発想で挑戦し続け、ある程度独自の領域を開拓することができたと思っております。これまでずっと健康に恵まれ、またたくさんの方々の優秀で心優しい学生達や同僚に恵まれたことと合わせて、感謝すべきことだと振り返って改めて思います。

いま地方国立大学はこれまでになような困難な状況に直面しておりますが、新潟大学農学部には新たな発展の目がいくつも生まれつつあるように感じます。皆様のご活躍を祈念いたします。

支部だより

◆北海道支部

本年度第二十回目を迎える新潟大学農学部北海道同窓会の総会は、十月二十九日(土)に、石狩郡新篠津村にある「しんしのつ温泉たつぷの湯」にて、源泉かけ流しの天然温泉と静かな環境の中での開催となりました。

開催案内は毎回九十通ほど出していますが、当日、他の用務がある方も多く、総会出席者は九名でした。出席できない方からもハガキやメールなどで近況報告があり、総会で紹介しています。ここ数年、参加人数が減少傾向で、今後更なる参加の呼びかけが必要となっています。



総会では、明田川会長(昭和四十五年農工)の挨拶の後、平成二十八年度経過・会計報告、平成二十九年度事業・予算案について協議し、それぞれ承認されました。役員改選では、全役員が留任となりました。

総会に続く懇親会では、成田顧問(昭四十一農化)による乾杯の挨拶のあと、近況報告等を行い、二時間

余り語り合いました。その後、二次会では、女性陣から新潟の銘酒の差し入れ

がありしました。新潟の銘酒を飲み比べ、夜十時過ぎまで盛り上がり、一升瓶が二本空いてしまいました。また、同時刻にプロ野球日本シリーズ第六戦が行われ、北海道日本ハムファイターズの優勝が決まり、楽しい一時となりました。

翌日の朝は、少し疲れが残っていましたが、温泉で疲れを癒し、それぞれ帰途につきました。

次回の同窓会は、平成二十九年秋頃、十勝方面で開催することとしました。会員の皆様、どうぞ気軽に出席の程、宜しくお願い致します。

佐藤 誠一(昭60農化)

◆秋田県支部

平成28年は全国各地で地震や台風などによる甚大な被害がありました。お見舞いを申し上げます。秋田では幸い大きな災害はなく、農作物の管理においては4月から強風、6月の日照不足、梅雨明け後の高温干ばつがあり苦労が多かったものの、稲作では平年を上回る作柄で園芸品目も前年を上回る販売額となるなど農業県としてのがんばりが実を結んだ年となりました。10月には秋田市で日本女性会議2016秋田が開催され、ダリアをモチーフに大会会場を彩り、秋田空港、秋田駅などでもオリジナルブランドのなまはげダリ



アを展示するなど、全国からのお客様にPRしたところでした。ダリアは切り花ダリアの国内流通の7割以上の品種を育種する秋田国際ダリア園の地元産地としてオール秋田で生産拡大に取り組んでいる戦略作目です。

さて、秋田県支部では去る6月25日に秋田キャッスルホテルで11名の参加のもと通常総会、12月3日には秋田市内で忘年会を開催しました。

年2回の支部活動ですが参加者は減少傾向、今年は少し寂しい人数でしたが近況報告では皆さんの仕事やプライベートの楽しいエピソードで大変盛り上がりしました。こうした楽しみを会員の皆様と共有して絆を深めたいところであり、今後は工夫を凝らした企画で活動を活性化させたいと思います。

生駒 隆一(昭61農化)

◆福島県支部

今年度は、事務局長の沢田吉男さんが、「福島県農中農林事務所長」としてご栄転になりました。そして、新潟大学関係の多くの方々がご栄転され、本庁からの情報が得られなくなつて寂しい状況です。

2016年7月2日、ホテルラングウツド新潟で、常任幹事会、次いで、総会が開催されました。

総会では、同窓会創立60周年記念事業など多くの業績を残されました。進藤隆会長から、渡辺仁新会長にバトンタッチされ、同窓会が益々の発展を期待されるところです。

総会において、支部活動報告の際に、福島第一原発の報告を始めたところ、宴会の騒音の中で、事務局の方からの「合いの手」が入り、話が一時中断。「ここには福島原発の風化が見られる」と思う、ひと時でした。智恵子抄『ほんとうの空』が福島にも、きつと蘇ることを信じて、報告を終えました。

続いて、『蔵人になって』丸田康輔氏の講演では「蔵の味は水の味だ」。酒の飲み方では、冷酒から割り水癪まで7種類を、明日の日の為に、しっかりとメモをとりました。

そして、懇親会では、早速、福島支部にお出で戴きました新村末雄先生のお席にご挨拶に出かけ、次回もお迎え出来たらと、楽しい懇談の機会を戴きました。講師のお蔵「真稜」の各種の御酒を、進藤隆会長の「利き酒」紹介もあり、宴もたけなわとなりました。

その宴も終わりに、早川利郎先生の音頭で、「農学部学生歌」の全員合唱を聞くころ、「新潟大学学生歌」に想いを馳せました。

昭和30年6



月8日、新潟市公会堂で、新潟大学教育学部合唱団の中に、一人混じって、「新潟大学学生歌」の初演に参加した当時の出来事が蘇ってきました。

「みはるかす越の山なみ 悠久の時を刻みて 脈々と大らかにあり 頂の雪の白きは つどひ寄る心を潔め 永遠の真理もとむる 輝ける眼育む」

高久 英昭（昭32農）

◆首都圏支部

新潟大学首都圏同窓会農学部会は昭和60年春、樋口春三会長の下で、小池英彦氏の努力により新宿野村ビルの野村倶楽部で第1回を開催しました。その当時は、100名以上が集まって活気がありました。プランクもあって平成15年は17回目、平成28年、農学部同窓会首都圏支部総会と名前を変えながらも30回目の同窓会総会を6月11日（土）に東銀座のラウンジ日比谷で開催しました。

農学部から渡邊剛志農学部長を来賓としてお招きをし、農学部の近況についてお話をして頂きました。農学部予算の削減、創生学部の新設、理農工学部の改組、農学部定員を20名増員して175名定員にすることなどの話がありました。総会は、来賓3名、同窓会員30名が出席をしました。昨年23名の出席で今後の開催が危ぶまれましたが、30名以上が集まってほっとしています。今回は新しい顔ぶれも多く、高橋丘さん（S48年卒）、石井慶三さん（S53）、清



水正俊さん（S53）、佐野真琴さん（S57）、角田貴介さん（H06）、内山拓さん（H09）、山崎奈穂子さん（H14）、長谷川友亮さん（H24）、相本夏実さん（H26）など、平成世代も多く参加してくれました。初参加の人が加わると話題も多岐に渡って話が尽きませんでした。総会は、活動報告・会計報告・会計監査報告を承認し、柳雅之氏（株鹿島建設環境本部部長／農工S58／S60年院卒）により、「バイオディーゼル燃料の現場活用によるCO2排出量削減と資源循環型社会への貢献」という演題で講演を行って頂きました。建設業界では、CO2排出量削減と資源循環型社会への取り組みが進められ、食用油をバイオディーゼル燃料に再生して、軽油に置き換えてエネルギーとして使用することによってCO2排出量削減を果たしています。

建設機械のクレーン、ブルドーザ、振動ローラやダンブ車、ミキサー車、散水車などの車両、発電機などに適用してCO2排出量を削減してきたということ、建設業協会では「バイオディーゼル燃料利用ガイドライン」を作成して普

及を図っているそうです。農業工学科卒の講演は初めてだったと思います。講演内容は大変参考になりました。

11月13日（日）に行われた第45回新潟大学首都圏同窓会総会には、農学部から山本等晨さん（S25年）、金子景一さん（S60年）、八木敬広さん（H14年）、相本夏実さん（H26年）、松野文香さん（H27年）など8名が出席をし、八木さん、相本さん、松野さんには受付も手伝って頂きました。今年は若い同窓生が参加をしてくれて、今後の同窓会活動に希望が持てるようになりました。八木さん、相本さん、松野さん、ご協力有難うございました。

佐藤 純一（昭47農化）

◆新潟県支部

新潟県支部では、平成28年1月30日（土）にANAクラウンプラザホテルにおいて第5回となる総会を開催しました。当日は冬の新潟らしい天候にもかかわらず、県内在住の卒業生73名の方々とご出席をいただき、進藤同窓会会長のご挨拶の後、事業及び会計報告、役員改選などをご承認いただきました。続いて、同窓会幹事長である箕口先生から農学部の近況をご報告いただき、農学部の嵐丘庭に記念植樹した木々の順調な成長ぶりが映像を交えて披露されました。その後の懇親会では、年長者を代表して佐藤昭一さん（S32・第5回卒）から乾杯のご発声をいただき、瞬く間に会場全体が賑やかな



話し声と笑い声に包まれました。宴の終盤では全員で農学部学生歌を熱唱し、最後に最年少の相澤健太郎さん（H22・第58回卒）の万歳三唱で中締めを行い、盛会のうちに閉会となりました。設立からまだ間もない新潟県支部ではありますが、「この会を毎年楽しみにしている」という大先輩のお話もお聞きし、県支部に期待される役割を再認識した次第です。

また、7月2日に開催された農学部同窓会と10月22日に開催された全学同窓会には、当支部から大変多くの皆さんに参加をいただき、懇親会も大いに盛り上げていただきました。新たに支部長に就任したばかりの私ではありますが、引き続き卒業生の皆さんのご協力を得て、大学のお膝元である新潟県支部を盛り上げていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願っています。

大嶋 良夫（昭58農工）

◆長野県支部

第20回の記念定期総会を平成28年9月17日松本市の「ホテルモントレニユ松本」で農学部同窓会会長の渡辺仁様の御出席を賜り開催しました。総会では、支部活動報告、本部同



窓会常任幹事会・総会報告を行い、支部の会計報告が承認されました。議事において支部役員選任が行われ、第10回から支部長をやられていた松坂賢様(農14回)が顧問(農14回)になりました。支部長に西原義久(農工16回)・事務局長に増野和彦(林30回)が選任されました。

総会後、「農学部」の現状と今後について、同窓会長渡辺仁様に記念講演をして頂きました。60周年記念事業で植樹した苗木が成長した様子や、「嵐丘庭」(同窓生と学生の思いを未来へつなげる森づくり)の森の成長した様子等写真で説明頂きましたが、同窓会でも支援しています。草取り等維持管理が大変であるとのことでした。平成29年度から農学部が大きく変わり、農学科1学科体制になり、国内のみならず、広く世界で活躍できる人材を養成することになると話されました。続いて、長野県信用農業協同組合連合会理事長になられた、小松伸治様(農27回)には、「長野県JAバンクの6次産業化への取り組み」について講演して頂きました。農業所得向上に向けて、生産(1次産業)×加工(2次産業)×流通・販売(3次産業)の6次産業化とし、主體的・総合的に係わり、農産物の付加価値販売を進め所得向上を図る取り組み努力しているとのことでした。

講演の後、出席された最年長の尾坂壽夫様(林13回)の音頭で開宴となり、しばらくし、待ち時間自由の近況報告となり、地域の役員をやられている方等色々な面で活躍されておられる話で、話題が広がり宴会時間が延び、最後に四季の新潟を歌い終演となりました。

西原 義久(昭43農工)

◆富山県支部

富山県支部では、平成28年7月29日(金)、農学部生産環境科学科助教の栗生田忠雄先生をお招きし、41名の会員が出席して、平成28年度支部総会・懇親会を盛大に開催しました。総会では、中島清信支部長(S47卒)の挨拶で、7月に新潟市で開催された同窓会総会において新役員の選出、農学部体制の見直しについての報告があり、その後、平成27年度活動報告・会計報告が行われ、それぞれ承認されました。

引き続き、栗生田先生から大学の近況等について、お話をいただくこととなり、富山への移動中のトラブルにより、予定どおり会場に着できないハプニングが発生しました。その位置(場所)を考



慮すると、当日の出席をあきらめざるを得ないところでしたが、幸いにも約1時間遅れで会場に到着していただき、大学の近況、農学部の改組について、ユーモアを交えてお話いただきました。栗生田先生には、ただただ、感謝に堪えません。

懇親会では、今年度から富山県支部に入会する金谷智大(H27卒富山県職)君から、新社会人としての抱負等を語ってもらいました。例年、新人の配属先の先輩から自己紹介への導入をしていただくこととなつていますが、当日、金谷君の高校時代の恩師である中敷睦(H元卒)先生が出席されていたこともあり、息の合ったやり取りに会場は盛り上がりしました。

懇親会の最後は、「農学部学生歌」「四季の新潟」を出席者全員で合唱し、楽しいひとときの終わりにしました。

現在、同窓会支部の会員は352名の登録がありますが、支部活動に参加してくださる会員が少なくなつてきており、会員の相互間の連絡に關して、事務局として腐心しております。今後とも中島支部長を中心として支部活動が良好に継続できるように、事務局一丸となつて会を支えていきたいと思ひます。

渡辺 大輔(平9生環)

◆福井県支部

福井支部の総会は、リアルな恐竜模型が雄叫びを上げる福井駅前のと



ある割烹で開催されました。福井駅前では、ここ数年で一氣に再開発が進み、周囲の様子は一変しました。駅にデカデカと恐竜の絵が描かれているほか、原寸大

の動く恐竜模型達が定期的に吠えます。わかつてはいるのですが、この鳴き声には未だにビクッとする場合があります。北陸を通られるときは、ぜひ福井に立ち寄つて眺めてください。他にも福井県には永平寺や明通寺といった有名な……失礼、総会に話を戻します。昨年は急な体調不良で参加できなかった日下会長から、今年は力強いお言葉をいただき、明るい雰囲気の中で総会が行われました。長年にわたつて奉職された職場を去り新たな門出を迎えた先輩や、責任あるポストに就かれた先輩、そしてポストコシヒカリとなる新しいお米の開発に携わる若い研究員など、同窓生の皆さんが各方面で活躍されている様子が紹介されました。皆さん本当にすごいですよね。さて、世話役としては無事に総会が進行されてほつとしたのですが、翌日は声が出なくて困りました。来年は力ラオケには付き合いませんからね!

明間 基生(平5畜産)

職場紹介

日本製粉株式会社

間 和 彦 (平2農化・平4院農)

【会社概要】

弊社は明治29年（1896年）の創業以来120年、現在に至るまで、小麦粉の安定供給と品質の向上に努め、パイオニアとして製粉業界をリードしてきました。現在、国内製粉業界ではシェア2位となっています。その小麦粉の豊富なラインアップに加え、小麦外殻のふすま、そば、米、コーン、大豆など穀物全般を原料とした多岐に渡



る商品を取り扱っています。弊社は、ニップンブランドを冠した製粉事業をコア事業としています。さらに、オーマイブランドを冠したパスタや天ぷら粉、から揚げ粉などのプレミックス類、加工食品や冷凍食品をはじめ、食材、中食で構成される食品事業を成長ドライバーとして、ヘルスケア事業やベクトケア事業など幅広い分野へ事業を展開しています。2016年8月には新宿駅周辺の再開発に伴い、本社を新宿から麹町に移転し、新本社ビルをスタートさせています。また、県内には新潟営業所があります。

【研究開発部門】

私は入社以来、研究開発部門に所属しています。全国4ヶ所に主にユーザー対応を行う開発部門である技術センターが、神奈川県厚木市に研究開発部門である開発本部、フードリサーチセンター、イノベーションセンターがあります。フードリサーチセンターとイノベーションセンターは、2016年7月に中央研究所が分かれてできた部署になります。フードリサーチセン

ターは、製粉や小麦粉、穀物とその加工の研究を中心とし、社内の分析部門やベクトフード開発部門があります。イノベーションセンターは社内公募制を採用し、機能性食品素材開発や小麦を中心とした植物育種研究などを行っています。自由な発想で将来の弊社の柱となるべき新規事業を開発・担当する部署になります。

【機能性食品素材の開発】

私の所属する部署はイノベーションセンターですが、そこでの研究開発の柱のひとつは機能性食品素材の研究開発です。ここでは、小麦に限らず、植物由来の機能性成分を活かした健康機能を持つ機能性食品素材を開発しています。それらを使用して自社で応用商品を開発したり、他社へ販売したりしています。食べて皮膚保湿効果のある植物セラミド、メタボリックシンドローム予防効果のあるアマニリグナン、虫歯予防効果のあるパミスエキス、ロコモティブシンドローム予防効果のあるオリブ果実エキスなどを開発しています (<http://www.nippon.co.jp/Brand/ric/>)。

業務内容としては、機能性成分の探索・分析、素材製造法の開発・製造化、健康機能の評価研究となり、特に評価研究では全国の大学や国の機関と様々な共同研究を行っています。また、最近スーパーフードとして注目を浴びているアマニ関連製品（アマニ油やアマニ

油マヨネーズ、ローストアマニなど）の開発も行っております。機能性表示食品の開発・申請も始めており、届出受理や表示食品の販売が始まっています。

【弊社新潟大学農学部出身者】

現在、弊社社員982名中、農学部出身者は2名しかおりません（新潟大学出身でも計3名）。しかも、その2名がイノベーションセンター在籍（センター長および副センター長）とかなり偏っています。2017年度に1名入社する予定ですが、門戸は開かれています。しっかりと考えた信念を持ち、やる気と主体性がある人であれば、自由にのびのびとやらせてくれる会社だと思っています。後輩の方々のチャレンジをお待ちしております。

【最後に】

弊社は食を通じて、みなさまの健康に貢献していきたいと考えております。弊社では業務用の商品も多いので、みなさんの気付かないところで、弊社製品を召し上がっていただいていることも多いと思います。今後ともニップン・オーマイブランドの商品や弊社機能性食品素材をよろしく願います。

弊社情報にご興味を持たれた方は弊社HPをご覧ください。

(<http://www.nippon.co.jp/>)

同窓生からのたより

毎日が勉強です

高澤 忠 司（平21生環）

① 現在の仕事

現在私は、斜面防災工事や地質調査業務を主体とする新潟県の企業で技術者として働いています。私の主な業務内容は、災害時の対策や平地における構造物の建設に必要な地盤調査や解析であり、他に付随する部分的な設計等も行います。

私は以前、道路の肩部が崩れた現場にて調査を行い、擁壁を設計しました。調査の成果を納品した後、暫らくたつて現場に行ってみると、擁壁が施工され道路がきれいに舗装されていました。私の仕事が地域社会に貢献していると実感しました。

② 熱中していること

最近熱中していることは美味しいお店を開拓することです。平成28年の6月より都内の財団法人に向向となり、現在は都内に妻と二人で暮らしております。週末になりますと、有名店や気になっているお店を食べ



ます。これまで行ったお店の中で、一番印象に残っているのは亀戸駅近くの「亀戸ホルモン」です。亀戸駅周辺はホルモン焼きの激戦区と言われており、当店は中でも特に人気の高いお店であり、いつも行列が絶えません。美味しさを表現するのは得意ではありませんが…… 気がついたらお肉が無くなっています。

③ 最近感動したこと

私は毎年、箱根駅伝を楽しみにしています。これまで陸上やマラソンをやっていた訳ではありませんが、各校の襷にかける熱い思いと、ドラマチックな順位争いがとても面白いのです。そんな折、今年度の業務で現場に向かう途中に芦ノ湖までの箱根路を車で運転することが出来まし

た。箱根路といえれば往路5区の区間であり、この区間は高低差約860mに加え、小田原中継所

から芦ノ湖までのおよそ20kmの山道を駆け上がるコースになっていきます。この5区を制するチームが箱根駅伝を制すると言われており、活躍した選手は山の神と称される程、5区というのは箱根駅伝の醍醐味の一つとなつていきます。そんな5区の区間を車で走り、箱根湯本や小涌園といった代表地点を目の当たりにし、運転中は各年のドラマがよみがえりました。

④ 大学、同窓会、学生の皆さんへ

私の仕事は、砂防分野における建設コンサルタント業務であることから、砂防研究室に所属していた私の場合、大学で学んだことがそのまま仕事に生きています。もちろん、こういった職業選択が最良と言いたいわけではありません。私は、学生時代にお世話になった先生には「初めて直面する物事に対して好奇心を持つこと」を学び、「考える力」を鍛えられました。仕事は楽ではありませんし、うまくいかないことの方が多い中、仕事に対してモチベーションが保てるのは、業務の中に楽しみを見つけ、前向きに仕事をしようと思いがけているからです。「好奇心」と、「考える力」は、仕事をする上で、私たちは生きていく上でも大事な要素だと私は考えます。

未筆ではございますが、同窓会誌

への寄稿という学生時代を振り返る機会を与えていただいたことに感謝しております。

⑤ 次回の執筆者のご紹介

生産環境科学科の同期であり、卒業した現在も親交の深い大塚文也さんにお願ひしました。よろしくお願ひします。

卒業後をふりかえつて

梅 田 裕 美

(旧姓 鈴木 平11生環)

① 近況報告

大学卒業後実家の福井に戻りシテム関係の仕事に就きましたが、結婚・出産を経て夫の転勤為、いろんな土地で生活しました。転勤に着いて行くのは、大変かと思われるかも知れませんが、その都度、福井とはだいぶ違う都会の生活を楽しんだり、たくさんの友人ができたり、とても充実した生活でした。今は、地元製造会社に勤務し生産管理部という部署で販売計画や仕入資材、人員を考慮しながら生産計画をたてるという仕事に従事しております。日々変わって行く状況から適切な判断が必要になって行き、まだまだ、未熟なもので毎日社内を走りまわっ

ています。一見、私の大学時代の学生でできた事とは繋がっていないように感じますが、数字を見て分析したり計算して行く事は、情報システム工学研究室での日々の研究と重なるようにも思っています。

② 趣味、または熱中していることは

学生時代から趣味でテニスをしています。なかなか時間が取れないのですが、月2度の練習と一年に2度の試合を楽しんでいます。また、毎年親子マラソンに参加するのがとても楽しみです。年々子供が速くなり、去年は遅いと子供に怒られ、今年は後ろからがんばれ〜と声をかけながら背中を押してくれました。子供に追い越されてくのは、とても嬉しい事です。

③ 最近、感動したこと

子供が少年野球を始め、最近はずで試合に出れるようになり、その姿にははらはら、どきどきさせられています。バッターボックスに立った



時の顔つきは家では見られないような緊張し、凜とした顔つきでわが子ながら立派に思えます。そこで、自分の出ていない試合で、負けた時に涙を流したり、一生懸命ボールを追いかける姿を見て、子供達全員に毎回感動しております。

④ 大学、同窓会、学生の皆さんへの意見、提言

お伝えできるような事はないのですが、私がいつも念頭に置いて行動していることがあります。2つの選択肢がある場合は、困難な方を選ぶようにしています。少しでも後悔のないような、自分に自信が持てるような人生になると良いと思います。

⑤ 次回に執筆していただく同窓生の紹介

生環同期の布野隆之さんをお願いします。よろしく願います。

トリ年への期待

土田 豊樹（昭60農）

① 近況報告



卒業後、新潟県職員として三十二年が経過し、現在は新発田農業普及指導センターに勤務しています。新

採用後11年間普及事業に従事して以来19年ぶりの普及現場であり、活動体制の変化や業務内容もより高度化していることに時代の流れを強く感じているところです。

新発田地域は平成二十六、二十七年と台風被害で大きなダメージを受けましたが、二十八年は一転して水稲・園芸作物とも作柄は良く、自然環境に大きく左右される中で、いかに安定的に農業経営を継続するにはどうすればよいか、改めて考えさせられた一年でありました。

② 趣味または熱中していること

昨今のランニングブームに乗せられ、年一回の新潟シテイマラソンへの参加を体力維持も兼ねて続けています。練習もゆるく、気が向いた日の早朝に走る程度なので、家族からは途中棄権を心配されていますが、何とか制限時間内ギリギリにゴールできているのが救いです。

碓谷小路から萬代橋へ続く道の真ん中を走る爽快感や、新潟大学を左手に見ながら折り返し、五十嵐浜から北上する新潟海岸の風景は最高だと思うのですが、走るのに精一杯で景色を見る余裕もないのが現実のところでは。

来年からはコースも変わり、制限時間も二時間延びて七時間になるそうなので、かなり気楽に参加できそ



うです。

③ 最近感動したこと

週末は田んぼで稲作りをしているのですが、代かき作業の時に毎年「主のように君臨している「アオサギ」に加え、昨年初めて「アマサギ」を見たことです。

アオサギは警戒心が強く一定の距離に近づくと必ず逃げていくのですが、このアマサギはトラクターの動きに合わせて後ろにピツタリくっついてくるのです。刷り込みでトラクターを親と思っているのか、本来の習性なのかわかりませんが、その小さな姿と相まってとても可愛くて癒やされました。

酉年の今年も来てくれたら、いい一年になるのではないかと期待しています。

④ 同窓会の皆さんへ

これまでを振り返ると、多くの場面で恩師、同窓会の先輩・後輩の皆さんに助けられました。深く感謝申し上げますとともに、同窓会というつながりは本当に貴重なものな

んだと感じています。

⑤ 次回の執筆者の紹介

同級生で在学時はムードメーカーで人望も厚く、今は群馬県庁に勤務している倉沢政則さんをお願いします。

何かを始めるのに遅すぎる ということはない

前田 聡 (平11応生)

① 近況報告

大学卒業後、私は「越後製菓株式会社」という会社に入社し、今に至ります。俳優の高橋英樹さんの「正解は!?」のCMの会社です。入社より10年ほど研究所に所属しておりますが、数年前に米菓工場に副工場長として異動となりました。研究所



では基本的に1人仕事ですが、工場では実務を現場作業の人達に任せて、それを管理するという

立場です。未だに戸惑うことがたくさんありますが、奮闘の日々を送っています。

② 熱中していること

学生の頃から、交通費が勿体無いという理由で、大学から新潟駅周辺までママチャリで遊びに行っていた私ですが、40歳を目前に控えた昨年、遅ればせながらロードバイクを購入しました。自分の人生の中では、車、パソコンに次ぐ高い買い物となりました。以来、生活の中心には常に自転車があるようになり、週末の晴れた日には必ず自転車に乗って遠出する日々を送っています。現在の自転車での最長走行距離は100km程度ですが、もっともっと遠くまで走れるようになりたいです。

③ 最近、感動したこと

運命のいたずらか、この3年間、新潟大学農学部には社会人ドクターとして所属していました。工場の業務と研究との二重生活は大変でしたが、指導教官や工場の人達など、様々な方々のご協力をいただき、2016年春、無事修了することが出来ました。年末年始の工場が一番忙しい中、業務そっちのけで執筆した学位論文が本になった時の感動は今でも忘れられません。

④ 大学、同窓会、学生の皆さんへ
私のいる工場のすぐ近くで、世界

最大の花火「四尺玉」が上がるお祭りが9月にあります。そのときは工場の駐車場も見物客に開放しています(注 有料です)ので、是非、お立ち寄りいただければと思います。花火が終わった後の「大・大・大滞り」も良い思い出になると思います。

⑤ 次回の執筆者のご紹介

同期で、同じ研究室に所属していた、山本州平さんをお願いしました。

40を目前に控えて…

坂井 信秀 (平14農生)

2002年の学部卒業、2004年の大学院修了以来、十数年の年月が経ちました。お世話になった皆様は元気でお過ごしでしょうか？村松農場で牛を追いかけて、格闘していた頃を非常に懐かしく思います。あの頃、まだ20代半ばだった私もこの2017年に40歳という節目を迎えることになりました。現在は同じ農業生産科学科の後輩である妻と2006年に入籍し、2人の子供にも恵まれます。学生時代の友人とは、今でも年に数回集まる機会があります。苦楽を共にした友と近況を語り合い、



あの頃のばか話を肴に一杯。この年になってもこういった関係が続けられるのは、同じ時代に同じ時間を過ごした学生ならではの思い出だと思います。世の中はスマートフォン一つで簡単にSNSを通して世界とつながれるデジタル時代ですが、実際に顔つき合わせて酒を酌み交わす…そんな究極のアナログな時間も大切にしたいものですね。

その他にも、個人的には趣味の野球が高じて独立リーグ新潟アルビレックスBCのサポーターをやっており、シーズン中の休日には息子と県内の野球場を奔走しております。自分自身も地域の早起き野球の大会に出場しており、今年からは壮年野球大会にも出場を考えております。

年齢40にして、青春真っ只中！

◎次回の執筆者のご紹介

紹介

2004年卒業、瀧田克典さんをお願いしました。



農学部における国際交流について

農学部国際交流委員会委員長 末 吉 邦

平成28年度における農学部の国際交流の主な動きを報告いたします。

この間の大きな出来事は、学術振興会の平成27年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に、本学の

「経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成」と題する事業が採択されたことです。この事業で、本学農学部は国内では福島大学と、海外ではトルコのアンカラ大学、エーゲ大学および中東工科大学と連携し、農業先端技術に加え、日土両国の経験・知恵を尊重する農食・防災技術を両国学生が学び、様々な困難や課題にグローバルな視点で

しなやかに対処できる能力・レジリエンスを身につけた農学人材養成を行います。事業を運営する統括センターを農学部におき、平成27年度から5年間で日本・トルコ間で相互に学生を短期から長期まで派遣および受入を行う計画となっています。トルコからはすでに



「大学の世界展開力強化事業」の短期プログラムに参加したトルコ人学生たち
(平成28年7月27日)



農学部留学生との懇談会
(平成28年12月6日、新潟大学第一食堂)



留学生との懇談会で踊りを披露したロシア人留学生たち

平成27年度に3名、平成28年度に16名の学生を受入れており(予定を含む)、派遣については国際情勢を踏まえ、安全面に十分配慮した実施を計画しています。

また、平成26年度から文科省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に、「ロシア連邦極東地域における高度農業人材育成プログラム」として採択されています。本プログラムは、農業分野における日本とロシアの緊密な連携関係に着想を得た教育プロ

グラムで、ロシア極東地域における課題解決に貢献する高度農業人材の育成を目指します。27年度はこのプログラムによる最初の国費留学生(博士後期課程)3名をロシアから受け入れ、28年度は5名の留学生を受け入れました。新潟大学が国際交流の戦略的エリアと位置付けるロシアとの関係がますます深まっています。

今年度も多くの来訪があります。8月23日には、中国山東省魚台县から李清霞副県長を団長とする6名の視察団が新潟ステーションを訪れ、水稲生産の現場を視察しました。9月27日には、新潟大学・刈羽村先端農業バイオ研究センター主催の国際シンポジウム(9月28日開催)に招聘されたチェコ・パラキー大学 Miroslav Ovecka 博士、イタリア・ミラノ大学の Ignacio Ezquer 博士が農学部でそれぞれの大学の紹介

をされました。10月2日には、李哲敏博士を団長とする中国農業科学院農業情報研究所の研究者3名が研究交流のため農学部および新潟ステーションを訪れました。

学生派遣の面では、9月5日から14日までの10日間、ロシア沿海地方農業アカデミーのサマースクールに4名の学生が参加しました。11月22日・30日には「農と食のスペシャリスト養成プログラム・国際インターンシップ」で、大学院生10名をハノイ工科大学に派遣しました。さらに、29年1月には、タイのカセサート大学に8名の大学院生を派遣する予定です。現在、トビタテ留学「TAPAZ」の奨学金を活用して、ハワイ大学、カセサート大学、チェンマイ大学に学生が自身の研究をさらに深めるために長期滞在しています。

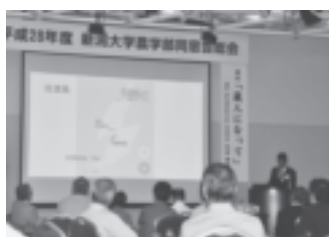
平成28年12月6日には、恒例の農学部留学生との懇談会を開催しました。留学生とご家族、指導教員、留学生のお世話をしている日本人学生など多くの方々が参加し、交流を深めました。ロシアの留学生からはフォークダンスとブリヤート地方の踊りの披露があり、大変盛り上がりしました。参加された方々の国籍は、中国、ロシア、バングラデシュ、パキスタン、ベトナム、モリシヤス、スペイン、ブラジル、モザンビーク、ナイジェリアと多岐にわたり、改めて農学部の国際色の豊かさが再認識される会となりました。

新潟大学農学部同窓会 2016年度常任幹事 会、総会及び講演会が 開催されました

平成28年7月2日(土) 例年と同じホテルラングウツド新潟において常任幹事会が開催されました。今年度は役員改選がメインの議題で、進藤隆会長が退任され、新会長には渡辺仁氏(昭52農工)が選出されました。引き続き8年ぶりに開催された総会(出席者94名)で新役員の顔ぶれが紹介されました。



渡辺仁新会長の就任挨拶



丸田康輔氏 佐渡逸見酒造製造部長(17.3卒)による講演

また、本年度は同窓生で活躍している若手による講演会を開催しました。講師は、佐渡市逸見酒造株式会社社長の丸田康輔氏(平17応生)が「蔵人となつて」の演題で講演され、自ら手を掛けられたお酒をお土産に持参されました。講演会の後での懇親会には蔵から直接取り寄せたお

酒をいただきました。懇親会は、三沢眞一氏(昭44農工)の乾杯で開宴し、各支部の活動報告、農学部学生歌と進行しました。今年は中山修氏(昭59農工)によるトランペットの演奏があり大いに盛り上がりしました。予定時間があつという間に過ぎ元会長の小林一三氏の万歳三唱で閉会しました。

学部だより

新任教員紹介

応用生物化学科

准教授 杉本華幸



はじめまして。杉本華幸(すぎもと はゆき)と申します。新潟大学自然科学系テニユア

トラック助教を経て、平成28年4月より農学部応用生物化学科に着任いたしました。元々微生物の作る酵素・タンパク質を対象としてその形成機構や作動機構の解析を行っており、どちらかというとタンパク質科学が専門でしたが、現在は応用微生物学研究室に所属し、講義は応用微生物学と遺伝子工学を担当することになり、複雑な微生物の世界に本格的に足を踏み入れました。学生時代から、微生物はあんなに小さいに、なぜ多

種多様な能力があるのだろうと不思議でした(翻って、抗生物質を生産できる *Homo sapiens* はいない)。先ごろ「生命、エネルギー、進化(ニック・レーン著)」という本を読みました。その中で、細菌は多芸なのに、真核生物のような複雑な構造をなぜもっていないのか、その理由が議論されていきました。細菌や真核生物の生きていくための奥深い戦略の一端を知り、新鮮な驚きがありました。そんななかで生命反応の担い手は酵素・タンパク質ですので、これらが細菌の多芸な能力を支えているともいえます。学生には微生物の働きを伝えられるように、研究では微生物酵素(現在は多糖分解酵素を対象にしています)の構造と機能に関する基礎および応用研究を続けていきたいと考えています。微力ではありますが、教育、研究において農学部でお役に立てるように頑張ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

内山武夫先生を偲んで

星野 力

(昭48農化)

内山武夫先生(元教授・応用生物化学科)におかれましては、平成28年9月20日にご逝去されました。享年80歳でした。先生は昭和41年4月に農学部に入部され、以来助手、助教授、教授を歴任され平成15年3月

に定年退職されました。昭和56年に名古屋大学から農学博士の学位を授与されました。37年間という長い年月日本の発展に尽力されました。全学の分析センター委員として最新の分析機器特に質量分析機器の導入に努力されました。実際に古い質量分析機を更新され、ガスクロマトや新たに液体クロマト質量分析計を農学部設置され、農学部だけではなく、理工、教育学部の学生・教員や学外の大学の先生方にも広く解放されました。お世話になった方々が数多くおられます。また、二度学科長を歴任され、学科の運営にあたられました。

先生は、主に植物カ尔斯の多糖類の研究を精力的に行われました。その研究で中国の留学生に博士の学位を授与され、現在中国の大学で教授職に就いておられます。また、ゴルフ場での農薬散布が土壌に及ぼす影響や環境浄化等の研究も精力的に行われ、その研究で博士号を取得した研究者も輩出されました。

定年後たしか2、3年後に病を患い、13年間という長い施設生活となられたそうですが、DVD映画鑑賞・読書・ハーモニカなどを楽しんでおられたそうです。また、先生は、農学部同窓会の学内幹事長として、同窓会の発展にも尽力され、多額のお金を同窓会に寄付されました。年に一回発行される松涛を愉しみにされておられました。

内山先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。合掌。

平成28年度 就業力育成事業支援

3年生とM1年生を対象に「農学部就職・進学ガイド」が実施されました。

卒業生からの講演

農業生産科学科

高橋侑希さん（さいとう農園）

応用生物化学科

塚田海斗さん（関東化学㈱）

生産環境科学科

小島淳さん（新潟県農林水産部）

日時 7月5日（火）16:30～18:00

会場 農学部C110教室

農学部同窓会は講師の旅費等を助成し事業を支援しました。



五泉市との交流協定



新潟大学農学部と新潟県五泉市（村松農場の所在地）との連携協定が平成28年9月16日に五泉市役所で締結されました。

農学部の動向

学会賞等受賞

○赤澤みなみ（平成23年卒・応用生物化学科）日本エネルギー学会奨励賞

○島本由麻（平成25年卒・生産環境科学科）地盤工学会北陸支部奨励賞

○久保田真敏（平成17年卒・応用生物化学科）日本栄養・食糧学会奨励賞

学会等の開催

○日本エネルギー学会（平成28年1月19日）第3回バイオマスアジア、朱鷺メッセ、実行委員長・小島康夫教授、応用生物化学科

○日本エネルギー学会（平成28年1月20～21日）第11回バイオマス科

○中野和弘教授（生産環境科学科）農業施設学会貢献賞

○伊藤 洵（平成28年卒・農業生産科学科）17TH AAAP Animal Science Congress [Young Scientist Award/JSAS Excellent Presentation Award]

○本田泰大（平成27年卒・生産環境科学科）農業農村工学会大会講演会優秀ポスター賞

○上田大次郎（平成25年卒・応用生物化学科）International Symposium on Natural Products for the Future 2016 Poster Award (Silver)

○上田大次郎（平成25年卒・応用生物化学科）第26回イソプレノイド研究会研究奨励賞

○本間利光（平成3年卒・農芸化学科）第5回日本土壤肥料学会技術奨励賞

○木南莉莉教授（農業生産科学科）日本地域学会著作賞

○吉川夏樹准教授（生産環境科学科）PAWEES Best Paper Award

○永井 慧（平成25年卒・農業生産科学科）日本地域学会修士論文賞

学位取得

○赤澤みなみ（平成23年卒）応用生物化学科、博士（農学）新潟大学

○渡部源哉（平成23年卒）応用生物化学科、博士（農学）新潟大学

○山崎奈穂子（平成15年卒）応用生物化学科、博士（工学）大阪府立大学

○小林秀一（昭和62年卒）林学科、博士（農学）新潟大学

学会議、朱鷺メッセ、実行委員長・小島康夫教授、応用生物化学科

○日本卵子学会（平成28年5月14日～15日）日本卵子学会第57回学術集会、朱鷺メッセ、大会委員長・新村末雄教授、農業生産科学科

○日本災害食学会（平成28年8月26日～27日）日本災害食学会第4回大会、新潟日報社メディアシップ、大会委員長・藤村忍准教授、応用生物化学科

○日本地域学会（平成28年10月8日～10日）第53回日本地域学会年次大会、新潟大学五十嵐キャンパス、大会委員長・木南莉莉教授、農業生産科学科



退職

当農学部及び新潟大学のため多大な貢献をされた先生方が平成29年3月に定年退職されます。

大山 卓爾教授（応用生物化学科）
門脇 基二教授（応用生物化学科）
新村 末雄教授（農業生産科学科）
渡邊 剛志教授（応用生物化学科）
ご功績に心から感謝申し上げます。
ありがとうございます。

教員計報

内山武夫元教授（応用生物化学科）

平成28年9月ご逝去

近藤 亨元助教授（園芸学教室）

平成28年6月ご逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員計報

荻間 伸一（昭23・3農専・農芸）
近藤 亨（昭23・3農専・農）
高橋 公則（昭24・3農専・農）
細貝 繁男（昭24・3農専・農）
石田 與助（昭26・3農専・林）
小間屋 進（昭28・3林学）
高澤（阿部）忠次（昭28・3農学）
川村 孝一（昭29・3林学）
山口 貞美（昭29・3農学）
高杉 幹男（昭31・3総農）
今野 茂（昭32・3農学）

市村 尚克（昭33・3農学）
杉山 晃（昭33・3林学）
高田日出男（昭33・3総農）
竹内（三留）敬陽（昭33・3農学）
小島 順三（昭34・3林学）
丹内 孝夫（昭34・3林学）
津野（水岡）行宏（昭34・3農学）
広野 正幸（昭34・3農学）
松岡（山田）正之（昭34・3林学）
両瀬 巖（昭34・3農学）
渡辺 角郎（昭34・3総農）
内山 武夫（昭35・3農学）
原 義弘（昭35・3農学）
吉田 幸（昭35・3農学）
鶴木 徹（昭36・3林学）
辻中 正明（昭36・3林学）
牧野 恭次（昭36・3総農）
水沢 寛重（昭36・3総農）
原 康郎（昭37・3林学）
小倉 寿雄（昭39・3農化）
久保田英治（昭40・3林学）
斎藤 英高（昭40・3農学）
堀尾栄一郎（昭40・3農学）
山本 英晴（昭40・3林学）
田崎 健二（昭42・3農学）
白井 太一（昭45・3農学）
鈴木真次郎（昭45・3農化）
志田（大野）守（昭47・3農化）
坂内 時雄（昭51・3林学）
増子 明（昭53・3農学）
山本 高士（平元・3畜産）
後藤 彰司（平2・3農化）
（卒年次順・五十音順）
謹んでご冥福をお祈りいたします。

同窓会事務局からのお願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業の根幹であり、運営の基となる貴重な資料です。

住所を変更された場合は、左記により農学部同窓会事務局までお知らせください。

住所変更の連絡方法

- ① 官制ハガキまたはFAX
025-263-3107
- ② E-mail:
dousou@agr.niigata-u.ac.jp

「新潟大学カード」入会のご案内

※新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三層iFJニコスと提携して「新潟大学カード」を発行しています。

入会費
年会費
無料

この機に是非ともご入会を！

詳しくはホームページ
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/card/> をご覧ください。

編集後記

四月に起きた熊本地震、夏から秋にかけての台風襲来、十二月には糸魚川の大規模火災と昨年数々の災害に見舞われました。被災された皆様には心からのお見舞いと早期の復興をお祈りします。いづどこで起こるか分からないので、日ごろから災害について考えておくことが大事ですね。

さて、今号から本誌の編集者が一新されました。新たなメンバーでこれから四年間担当させていただきますのでよろしくお願ひします。

昨年、本誌誌面を横書きにすべきとの意見をいただきました。一方、これまで通りで良いとの意見もあり、編集委員会ではこのままということになりました。引き続きみなさまからの御意見を参考に、より良い誌面作りに向けて取り組みます。



新潟大学 農学部が変わります！

平成29年度より新潟大学農学部は1学科体制になり、入学定員が155名から175名に20名増員されます。また、新学科（農学科）の中に5つの主専攻プログラムが設置されます。

農学部改組の経緯、基本的な理念・目的、改組の枠組み、新しい農学部の教育課程の特色等につきましては、渡邊農学部長の「学部長挨拶」（2～4ページ）をご覧ください。

また、農学部の組織図及び入学後のスケジュールについては、20ページの図をご覧ください。

以下に農学部改組によって設置される新しい5つの教育プログラム（主専攻プログラム）を紹介致します。

新しい5つの教育プログラム（主専攻プログラム）

応用生命科学プログラム

最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノムサイエンス等、微生物・植物・動物の生命現象とその応用に関する高度な専門知識と実験技術を幅広く修得した、化学（医薬品、化粧品、化成品等）・食品・環境・農業・エネルギー等のバイオ関連分野で活躍できる人材を育てます。

食品科学プログラム

現代の食品には、栄養価、美味しさ、健康など多様な機能が求められています。そこで食品成分・栄養素等の化学的基礎から、食品の原材料、加工・機能・分析・安全性・マーケティング、さらに免疫等、現代の食の課題解決に至る高度な知識と技術を学びます。これにより、食品関連企業や公的研究機関で、研究者や技術者等として活躍できる人材を育てます。

生物資源科学プログラム

農畜産物の品質と生産性の向上、環境にやさしい農業の実現、および農山村地域の発展に貢献できる幅広い専門知識と技術をもつ人材を育てます。そのために、動植物におけるバイオテクノロジー等の先端技術の開発・応用や、国際的な視点も有した農山村資源の総合的な利活用等に関する教育研究を行っています。

流域環境学プログラム

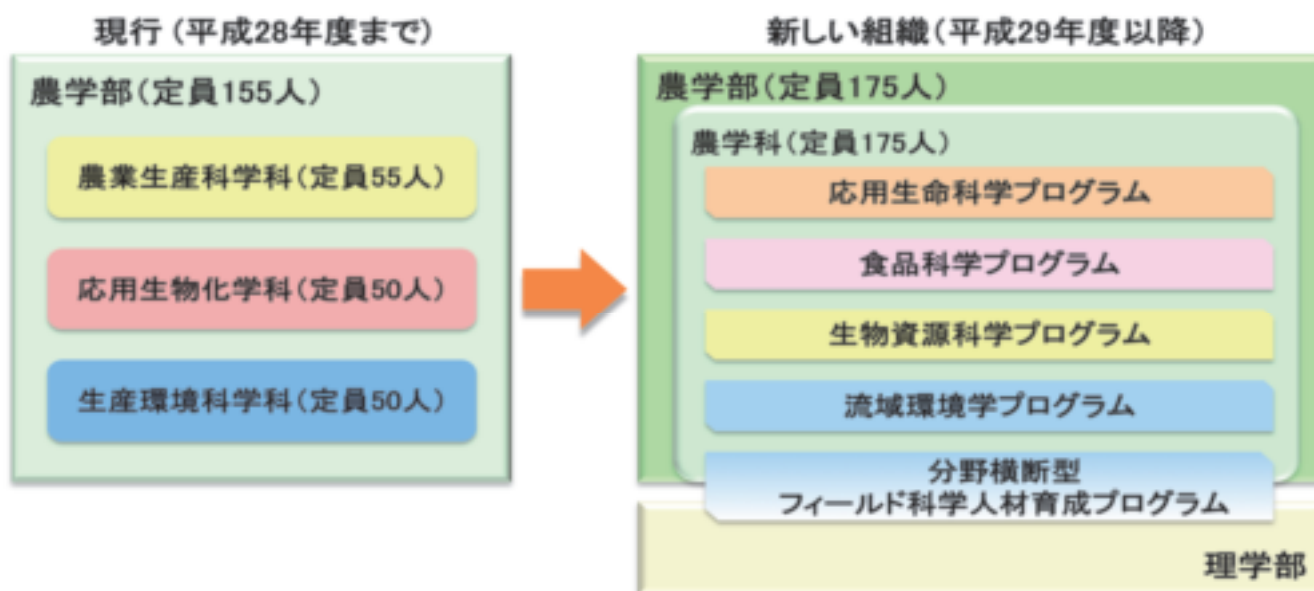
地域の自然環境と調和した持続的な農林業の営みを可能にするための森林や野生動植物の保全、農業支援システム、水や土の保全に関する幅広い専門知識と技術をもつ人材を育てます。専門知識を学ぶ座学のほかに、野外での実習・演習科目も多く、実際に目で見て、体を動かして学ぶことができます。

フィールド科学人材育成プログラム

理学部と農学部の学生がともに学ぶ分野横断型プログラムで、動植物生態学、災害科学、気象科学等のフィールドに関わる幅広い教育研究を行います。野外のさまざまな場面で必要とされる知識と技術をあわせもち、生物多様性保全、災害対策、環境問題等の複合課題にアプローチできる、実践力を備えた人材を育てます。

新潟大学 農学部が変わります！

農学部は以下のように変わります



入学後のスケジュールは以下ようになります

